ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

**Press Release**

令和８年11月６日

【照会先】
健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課
エイズ対策推進室長　小谷聡司(内線2373)
感染症情報管理室長　大塚和子(内線2389)
（代表電話）03(5253)1111

報道関係者　各位

# 世界エイズデーに向けた普及啓発イベントを実施します

厚生労働省は、12 月１日の世界エイズデーに向け、公益財団法人エイズ予防財団やエイズ関連ＮＧＯ等の関係団体の協力を得て、普及啓発イベントを実施します。

また、各都道府県、保健所設置市及び特別区においては、関係機関等と連携し、エイズに関する最新の正しい知識の啓発活動を展開します。

記

１　テーマ

**世界エイズデーイベント　放課後アップデートゼミ！**
**～HIV とエイズの今を楽しく学ぼう♪～**

２　イベント概要　※詳細は別添１のとおり

タレント、アーティストによるトーク＆ライブ
日時：令和８年 12 月３日(木) 18:00～20:00（予定）
会場：The Garden Hall（東京都目黒区三田１丁目 13-2 恵比寿ガーデンプレイス内）
受付：16:30～　会場入口に「マスコミ受付」を設置
※取材場所に限りがあるため、報道関係者の入場は当日の受付順とします。
17:00～　取材上の留意事項等の説明

３　世界エイズデーとは

世界保健機関（ＷＨＯ）は、1988 年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12 月１日を“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱しました。我が国としても、その趣旨に賛同し、毎年 12 月１日を中心にエイズに関する最新の正しい知識等についての啓発活動を推進しており、全国各地で様々な「世界エイズデー」イベント等が実施されています。

４　取材方法

別添２「取材申込書」にて 11 月 24 日（火）正午までに申込みのこと
※事前申込がないと、当日の取材はお受けできません。
※報道上の留意点は、個別に確認させていただきます。

【問い合わせ先】
厚生労働省　感染症対策課　エイズ対策推進室
直通電話：03(3595)2257　　Email：kansensho-koho@mhlw.go.jp

別添１

## 世界エイズデーイベント 放課後アップデートゼミ！
## ～HIV とエイズの今を楽しく学ぼう♪～

日　　時 ： 令和８（2026）年 12 月３日（木）18:00～20:00（予定）
場　　所 ：The Garden Hall（東京都目黒区三田１丁目 13-2 恵比寿ガーデンプレイス内）
出 演 者 ： 曽根凌輔、寺島季咲、榎田一王、藤田みあ、Jobu、ベリーグッドマン、
白阪琢磨（独立行政法人国立病院機構大阪医療センターHIV/AIDS 先端医療開発センター　特別顧問、医師）、浜口順子
明治大学 Big Sounds Society Orchestra（BSSO）　（敬称略）
※告知サイト（https://r-redribbon.jp/）にて出演者情報を随時更新予定

実施内容 ： 一般観客を無料で招待し、アーティストやタレントによるトークとライブを実施。若者世代を中心とした幅広い世代に向けて、HIV とエイズに関する理解促進と予防啓発のメッセージを発信。
プログラム ：（１）タレント、医師による HIV とエイズに関するトーク
（２）アーティストによるライブ
（３）ニコニコ生放送、YouTube ライブによりオンラインでも配信（予定）
※後日、一部動画をアーカイブ配信（予定）

参 加 費 ： 無料（抽選により 400 名様を招待）
参加方法 ： 募集期間 11 月６日（金）18 時 00 分～11 月 20 日（金）23 時 59 分（予定）
告知サイト ： 「世界エイズデーイベント　放課後アップデートゼミ！」オフィシャルサイト
https://r-redribbon.jp/
主　　催 ： 厚生労働省（事業委託先：株式会社日本経済広告社）



別添２

# 「世界エイズデーイベント」取材申込書
# 申込〆切　11/24(火)正午まで

感染症対策課（kansensho-koho@mhlw.go.jp）宛てにお送りください。

| | |
|---|---|
| **社　名** | |
| **媒体名** | |
| **部署名** | |
| **氏　名** | （合計　　名） |
| **連絡先** | 電話：<br><br>Email： |
| **カメラ** | あり　（ スチール　・ ムービー　）　・　　なし<br><br>※該当するものを○で囲んでください |
| **通信欄** | ご要望等がございましたら、ご記入ください |

［注意事項］
・当日の入場は先着順です。ご了承ください。
・駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
・取材上の留意事項やカメラ取材の位置等については当日、スタッフがご案内いたします。

※お申込み後、イベント企画制作（日本経済広告社）より確認連絡を入れさせていただきます

【取材申込書送付先、問い合わせ先】
感染症対策課　広報担当
直通電話：03(3595)2257
Email：kansensho-koho@mhlw.go.jp

参考資料１

# 令和８年度「世界エイズデー」実施要綱

１　名　　称

令和８年度「世界エイズデー」

２　趣　　旨

ＷＨＯ（世界保健機関）は、1988 年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12 月１日を“Ｗｏｒｌｄ　ＡＩＤＳ　Ｄａｙ”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱した。

1996 年から、ＷＨＯに代わって、国連のエイズ対策の総合調整を行うこととなったＵＮＡＩＤＳ（国連合同エイズ計画）もこの活動を継承しているところである。

我が国においてもＵＮＡＩＤＳが提唱する“Ｗｏｒｌｄ　ＡＩＤＳ　Ｄａｙ”に賛同し、その趣旨を踏まえ、12 月１日を中心にエイズに関する正しい知識等についての啓発活動を推進し、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図る。

また、性感染症のり患と、ＨＩＶとエイズとの関係が緊密であること等を鑑み、近年感染者数が増加している梅毒や、国内で散発的な患者の発生が報告されているエムポックスについても、検査の実施や普及啓発の推進を図ることとする。

３　主　　題（キャンペーンテーマ）

「あなたの話を聞かせてください」

趣旨等については、別紙「令和８年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて」を参照のこと。

４　期　　日

令和８年 12 月１日

ただし、地域の実情等に応じ、12 月１日を中心とした前後の日でも差し支えないものとする。

５　主　　唱

厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団

６　実施方法

(1) 厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団

関係行政機関、エイズ関連ＮＧＯ（非政府組織）等の関係団体、民間企業、報道機関等の協力を得て、全国的な啓発活動の推進を図る。主として 12 月１日を中心に啓発事業を行うほか、年間を通じた普及啓発のためのキャンペーンを実施する。

(2) 都道府県、保健所を設置する市及び特別区

関係機関、関係団体等との連携を密にし、それぞれの地域の実情に応じた広報計画、実施計画等に基づき、次の事項も参考にしながらＨＩＶとエイズに関する正しい知識の啓発活動を展開する。

① 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画等の協力を得た広報活動の実施
② ポスター、パンフレット、リーフレット、ビデオ等の作成・配布等による啓発活動の実施
③ 研修会、講習会、講演会、シンポジウム、街頭キャンペーン等の実施
④ 学校、企業、地区組織等に対する呼びかけ及び協力
⑤ 一般住民のみならず、相談窓口職員、医療従事者、教育関係者等への啓発

また、梅毒やエムポックスなど関心度の高い感染症情報とも合わせて、特に梅毒は街頭での呼びかけや感染リスクの高い性産業従事者等への啓発活動等積極的な広報に努める。

なお、都道府県から警察に依頼があった場合、広報のために性風俗店営業者の事業者情報の提供や保健所職員等が個別の事業者を訪問する場合にトラブル防止の必要が認められればその活動の後方支援などを協力していただけるため、適宜相談していただくこと。

## 7 普及啓発における留意点

### (1) 普及啓発の基本的考え方

後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（令和７年厚生労働省告示第 294 号）の趣旨を踏まえ、我が国に在住するすべての人々に対し、ＨＩＶとエイズに関する最新の正しい知識の普及啓発を強化する。

普及啓発に当たっては、近年の発生動向や対象者の実情を踏まえ、それぞれのニーズに応じた最新の正しい知識を分かりやすく提供するとともに、効果的な媒体を活用しながら、理解の促進に努める。

### (2) 人権の尊重

患者・感染者が尊厳を持って安心して暮らせる社会を実現するためには、患者・感染者本人のみならず、周囲の人々がＨＩＶとエイズについて正しく理解することが重要である。また、就学や就労をはじめとする社会参加を促進することは、患者・感染者の人権の尊重及び福利の向上だけでなく、社会全体におけるＨＩＶとエイズに関する最新の正しい知識の啓発や感染者等に対する理解を深めることになる。

さらに、患者・感染者が安心して治療を継続しながら生活を送るためには、医療現場、学校、職場及び地域における偏見・差別の発生を未然に防止することが重要である。そのため、ＮＧＯ等と連携し、これらの関係機関や地域社会に対してＨＩＶ感染症・エイズへの理解を深めるための教育・啓発活動を推進するとともに、事例研究や相談窓口等に関する情報提供を行うことが必要である。

### (3) ＨＩＶ治療の進歩と検査・早期治療の重要性

ＨＩＶ治療の進歩に伴い、ＨＩＶに感染した場合でも早期診断及び早期治療によって長期間にわたり社会の一員として生活を営むことが可能となっている。

そのため、検査・相談は最寄りの保健所等で無料・匿名で受けられるほか、医療機関でも受検ができることについて周知を図るなど、利用機会に関する情報提供の充実に努めるとともに、検査・相談をより受けやすくするための配慮が必要である。

(4) その他

広報の実施に当たっては、患者・感染者やその家族の社会的背景や人権に配慮する。

参考資料２

# 令和８年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて

１　キャンペーンテーマ

あなたの話を聞かせてください

２　趣　　旨

本キャンペーンテーマは、主として次に掲げるメッセージを発信するものです。

ＨＩＶとエイズをめぐる状況は、治療や予防の進歩により大きく変化しています。一方で、ＨＩＶに関する不安や悩み、検査や治療へのためらい、感染した人々への差別や偏見は、今なお社会の中に存在しています。こうした課題に向き合うためには、最新の正しい知識の普及に加えて、一人ひとりの思いや経験に耳を傾け、互いを尊重し合う姿勢が重要です。

今年度の「世界エイズデー」キャンペーンテーマには、令和７年 11 月に改正された予防指針でも重視している「人権の尊重」という考え方を広く社会に伝えたいという思いが込められています。ＨＩＶに感染している人、感染を心配している人、検査や治療について迷っている人、そしてＨＩＶやエイズについて身近に感じる機会の少ない人も含め、誰もが安心して自分の思いを語ることができ、その声に耳を傾ける社会を目指すメッセージです。

知識を得ることは大切ですが、それだけで検査の受検や受診、治療の継続といった行動につながるとは限りません。不安や悩みに寄り添い、必要なときに話を聞いてくれる人や相談先があることは、適切な行動への大きな支えとなります。また、ＨＩＶ陽性者の語りは、多くの人々に理解や共感をもたらしてきました。

このテーマは、誰かに話すことを求めるものではなく、話したいと思ったときに、その声を受け止める環境の大切さを伝えるものです。世界エイズデーを契機に、対話と共感を通じてＨＩＶとエイズへの理解を深め、検査や相談の促進、差別や偏見のない社会の実現につなげていきたいと考えています。

３　留意点

キャンペーンテーマは上記趣旨を踏まえ、世界エイズデー関連イベントに限らず、啓発資材や講演・研修会の内容への盛り込み、名刺やメール署名への記載等、年間を通じ、啓発活動の場において広くご利用ください。

キャンペーンテーマの趣旨は、エイズ予防情報ネットにも掲示いたしますので、ウェブサイト等で啓発活動を展開する場合のリンク先として適宜ご活用ください。

（https://api-net.jfap.or.jp/index.html）

参考資料３

## その他啓発および、情報提供一覧

| 発信元 | 実施内容（Webサイト） |
|---|---|
| エイズ予防情報ネット（API-Net） | 世界エイズデー特設ページ<br>https://api-net.jfap.or.jp/edification/aids/special2026.html<br><br>・キャンペーン情報<br>・ポスターコンクール<br>・地方自治体の取組予定一覧<br>世界エイズデー前後の期間、全国の自治体で実施されるイベント、検査・相談に関する情報<br>※イベント、HIV検査・相談等に関する情報は随時更新予定 |
| 世界エイズデーイベント 放課後アップデートゼミ！ オフィシャルサイト（REBORN RED RIBBON） | https://r-redribbon.jp/<br><br>・世界エイズデーイベント 放課後アップデートゼミ！案内<br>・その他予防啓発に関する情報 |
| 厚生労働省 | https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eizu/index.html<br><br>・世界エイズデー概要<br>・イベント情報 |




本年度の世界エイズデーキャンペーンポスターは、高校生の部から選ばれました。

参考資料４

# エイズ広報を行う際の留意事項（不適切な表現等）

## 患者・感染者を傷つけたり、差別、偏見を助長するような表現は避ける

**◇エイズ撲滅、エイズ抑圧、エイズ根絶**

→エイズ克服、エイズ蔓延の防止、エイズストップ、患者・感染者に対する差別と偏見の解消、という表現が望ましい。

**◇エイズをたたきのめす、やっつける**

→患者・感染者を排除しようとするイメージを与える表現なので避ける。

**◇エイズ汚染、エイズ禍、ウイルスをまき散らす**

→患者・感染者が社会を汚しているというイメージを与える表現なので避ける。

**◇理性ある行動をとるべき、節度ある行動をとるべき**

→患者・感染者はだらしがない人というイメージを与える表現なので避ける。

**◇ハイリスクの人**

→危険なのは、「人」ではなくハイリスクな「行動」なので避ける。

**◇（発病すれば）必ず（100%）死ぬ**

→死は誰にも等しく起きる現象であり、エイズ特有のものではない（エイズ＝死という概念そのものが間違っている。）。近年、治療の進歩により、HIV 感染症が早期に診断されれば、服薬を続けることで、エイズ発症を抑えることが可能である。

**◇エイズの恐怖・魔の手、忍び寄るエイズ**

→いたずらに恐怖心をあおる表現は避ける。

**◇ホモ（ホモセクシュアル）**

→蔑称として使われることが多い。「MSM*」「男性同性愛者」「ゲイ」などの表現が望ましい。

＊MSM（Men who have sex with men）：男性で同性間性的接触を行う者（バイセクシュアルも含まれる）

**◇レズ**

→ホモとセットで蔑称として使われている。「レズビアン」又は「女性同性愛者」等の表現が望ましい。

**◇多数との無防備なセックス**

→相手が多数でなければ大丈夫という誤解を与えるため避ける。

**◇コンドームを使うのは男の役割**

→女性用コンドームの使用もありうること、また同性間での性的接触もあること等から適切な表現ではないため避ける。

以上